

伊豆の海賊衆

和泉

清

伊豆半島が世界ジオパークに認定されるという話題がマスコミを賑している。「南から来た火山の贈り物」というキャッチ・フレーズからもお分かりのよつて、フィリピン海プレート上に誕生した海底火山群が隆起して火山島になり、約60万年前に本州に衝突して伊豆半島になった。いわば火山の集合体ともいえる伊豆半島は、複雑な地形で、特に西海岸は岬と入江が交錯している。背後に山地が迫る狭小な入江(湾)の奥には、僅かな平地を求めて、家屋が密に建設されている。

網元とは、生業の中心が水産業になつてからの呼称であり、中世以前は海賊と呼ばれるのがふさわしい、いわば「海の豪族」であった。

伊豆水軍」を著した永岡治氏は、その中で「海賊といふ呼び名から連想するイメージは、すぐ人を殺傷し財宝

を立てるが、自給自足あるいは沖へ船から通行を出来ない。そこで彼らは商品流通に手を出さざるを

着生活ができるなかつた。漁業や海上運輸、水先案内、関東を結ぶ「海の道」の中

が、海上の船を襲つて略奪を働くことがなかつたわけではないか。そのよつた例

はむしろ少なかつた」と述

べ、従来、海賊は九州・瀬戸内・熊野など西日本が本

がみられ、北朝の関東管領足利基氏が伊豆海賊衆11人に対し贈った感状なども残つてゐる。

彼ら海賊衆は富永備前守山本飛騨守などと名乗り、まるで一国一城の主のよう

だが、実体は敏感に時勢を読み、優勢な側について武

功を競い、恩賞を目当てに

参戦。三浦氏の配下にあつた丈島攻略や、房総半島の里見水軍との海戦でも活躍している。

豆の海賊衆は三浦半島の三浦氏制圧にも豊臣との戦いに備えた。

その後、伊豆の旗挙げ（1493）の際、い

ち早く参陣している。

豆の海賊衆は三浦半島の三浦氏制圧にも豊臣との戦いに備えた。

